

令和5年度 事業報告

I 概要

管理栄養士・栄養士は人々の栄養に関し根拠に基づいた情報を伝えていくことが必要であり、近年は特に県民を支援する具体的な活動が求められるようになりました。平成5年度は広いフィールドの中でさまざまな活動に取り組んで参りました。

「県民の公衆栄養の向上」に寄与する事業として、「オーガニック朝市村」「ウェルフェア2023～福祉・医療・健康の総合展～」「チューキョウくんの子育て応援団すこやかフェスタ」などにおける栄養相談があります。これらは毎年実施しており、県民の方々の食生活に関する相談の場として根付いたものとなっており、さらに令和5年度は第70回日本栄養改善学会学術総会が県内（名古屋市）で開催されたことから、一般の県民の方々を対象とした「SATシステムを使用した栄養相談」を行いました。日本栄養改善学会と協働した事業として実施し、50名の参加がありました。

「栄養ケア・ステーション」は登録者数が176名（令和6年3月15日現在）となりました。栄養ケア・ステーションへの依頼は、特定健診保健指導をはじめ講演会や研修会講師、イベントでの栄養相談などが14件あり、登録された方々に活動していただきました。市町村地域ケア会議への参加依頼は7市町からあり、全52回延27名が参加いたしました。なお、管理栄養士・栄養士の顔の見える“地域密着型”の体制づくりのため、即戦力となる人材育成に力を入れた研修を進めて参りました。

アジア競技大会愛知・名古屋2026に向けては、公益財団法人愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会組織委員会からアスリートに提供される飲食物の食品構成等の作成業務委託を請け、12名のプロジェクトチームを編成し、アスリートのための食品構成及び基本メニュー、食品表示基準、ハラル対応なごやめしレシピ集、食品安全衛生ガイドラインなどを作成し、3月29日に提出いたしました。今後、アジア競技大会開催に向け、スポーツ栄養の普及啓発活動が期待されています。

組織強化には会員数を増やすことが不可欠です。日本栄養士会全体としては、前年度比が1.5%の減ですが、愛知県栄養士会は2%（43名）の増となりました。特に再入会者が81名と他県にはない状況です。これは、職域における会員のニーズに合った魅力ある研修企画の成果だと考えます。

また、愛知県栄養士会 公益法人化10周年記念誌『これまでの道のりとこれからのビジョン』をまとめることができました。法人化への苦労や各職域・部会等のこれからのビジョンが綴られております。本会ホームページに掲載いたしましたので、是非ご一読ください。これまで愛知県栄養士会の礎を築き上げ、発展にご尽力いただきました諸先輩を始めすべての会員の皆様に厚く感謝申し上げます。

なお、令和6年1月1日に発生しました「令和6年能登半島地震」におきましては、日本栄養士会及び石川県栄養士会からの要請を受けまして、1月9日から日本栄養士会登録の本会JDA-DATリーダー12名を4班に分けて派遣しております。

Ⅱ 重点項目

1 栄養ケア・ステーションの充実

どの地域でも管理栄養士・栄養士の顔が見える環境づくりとして、地区組織を整備いたしました。即戦力として活動できる栄養士の確保のために登録制度を設け、派遣システムを確立いたしました。診療報酬、介護報酬および障害福祉サービス等報酬の同時改定を見据えた人材育成研修を強化いたしました。

2 エビデンスに基づいた情報収集

各職域部会から選出された「ADA子どもプロジェクトチーム」を立ち上げ、子どもの栄養に関する様々な視点からの情報を収集し、その内容を会員へどのように行うかについて検討いたしました。

3 会員の専門知識・技術の向上

会員の自己研鑽の場としての生涯教育研修会では、実践している専門業務についてまとめ、伝える手法（実践研究）を習得していただきました。愛知県栄養士会実践報告会2023において参加者から5例の発表があり、一定の成果を得ることができました。

4 関係諸機関・団体との連携強化

関係諸機関・各団体との連携・調整・強化を図り、各種の共済事業、後援事業に協力し、管理栄養士・栄養士の専門性と重要性を訴えつつ、事業の支援、協力を努めております。現在25団体に本会が役員・委員となっております。

5 組織強化対策

ホームページや情報機器の充実とともに各職域の会員ニーズに合った研修会の実施により継続会員の確保に努めました。また、新卒者の本会への加入を促進するため、管理栄養士・栄養士養成校訪問や先輩の実践業務をホームページで紹介する「フレッシュダイエティシャン」などに取り組みました。年度末には前年度比2%の会員増となりました。